

長野県林業大学校 教育方針

長野県林業大学校は、長野県林業の近代化を推進するため、専門的な知識・技術を身につけ、農山村地域にあって指導的な役割を果たす技術者並びに林業後継者となる有能な人材を養成することを目的として、行学一致の総合的な教育を行う。

- 1 一般教養を高めるとともに、専門的な知識・技術を体系的に習得させ、さらに寮生活を通じて人間形成を図らせるなど指導者となるための全人教育を行う。
- 2 大学、試験研究機関との連携のもとに林業に関する技術並びに知識を習得させ、長野県林業の進むべき方向に沿った教育を行う。
- 3 実験・実習を重んじ、実践的な教育を主眼として、新時代の社会の要請に対応し得る生きた教育を行う。

重点目標（中・長期目標）	総合評価		評価
日本一の林業大学校を目指す。	日本一の林業大学校を目指すためには、他校に比べ抜群に優れた講師・講義レベル・施設・機械設備であることが必要となる。しかしながら、それは多大なる予算措置を伴うものとなり厳しいのが現状である。本校では、講義内容の徹底した検討と、他大学・企業などとの連携協定などにより、資産や施設・機械設備をシェアすることにより、より高いレベルの教育内容を実現した。		B
今年度の重点目標	成果（○）と課題（●）	改善策	評価
本校の将来の姿を明確にし、その実現に向けた講義の充実及びカリキュラムの全面的見直し	○カリキュラム見直しの検討は教務会議で行われている。 ●林大の将来の姿についての有り方検討会「林大グレードアップ推進会議」での結論が出ていないため、将来の方向性が確定せず、カリキュラム全体の見直しができない。	・「林大グレードアップ推進会議」の議論の方向に注視し対応する。	B
基本的な器具機械の更新、確保	○最大の課題であったチェーンソーについて、最新の安全性に優れた機器を20基予算獲得し、購入できた。 ●刈払機10台は老朽化のため部品調達ができず、至急更新が必要である。 ●チェーンソーについても、来年度更新機について購入が必要である。	・平成30年度予算で要求する。	B
現地の最新技術に対応できる機器の整備	○GPSなどの機能を使える最新の機器を予算化し購入できた。 ●要求額どおり予算措置されなかったため数量が不足している。	・引き続き予算要求を行う。	B
大学等教育機関、行政組織、地域団体・企業等との連携強化	○信州大学農学部、長野県林業大学校及び岐阜県立森林文化アカデミーの連携・交流に関する覚書を平成29年9月4日に締結し、高度な高性能林業機械操作実習が実現できた。さらに、来年度に向け連携・交流事業の拡充が検討されている。 ○ハスクバーナ・ゼノア㈱との教育協定を平成29年5月25日に締結し、国内最高レベルのチェーンソー技術者から講義を受ける「トップガン研修」が構築された。 ○地域の保育園児等との交流を通じ、演習林での森林教育科目が充実した。	・引き続き関係機関との連携強化に努める。	A
2年生の進路の早期確定と平成30年度入学志願者の確保	○面談を重ね本人の意向を把握した上で、早期に具体的な就職先を選定できるよう、インターンシップへの積極的な参加を促し、年内に全員の進路を決定した。 ●公務員志望者は11月中旬に決定するため、不合格となった場合の指導が必要である。 ○募集定員に対し、1.7倍の志願者があり、定員どおりの入学者を確保することができた。	・公務員志望者にも、第2の候補となる職業を選定するよう指導する。	A

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果（○）と課題（●）	改善策	評価
学習指導	授業実習内容の充実を図る。	【拡】 ねらい、展開、習得度の観点で授業を組み立てることができたか。 また、学生の理解度を把握し、わかりやすく興味を引く授業を行なったか。	○学生アンケートを昨年度実施し、学生の学習指導の方向性について、考察できた。 ●アンケート結果より、実物や現場での実践などを多く取り入れることが必要。 ○小テスト等により、学生の理解度を把握し、実物や写真等を活用することで、学生の興味を引く授業を展開することができた。	・アンケート結果を踏まえ、各講師が工夫している点を教務会議で報告、授業を充実させる。	B	
		【新】 学生が、自ら考える力を習得するよう指導できたか。	○自主研究の充実を図るため、年度当初より学生の希望課題を募り、教務全員で学生個々の課題の指導に取り組んだ。 ○学生の自主性により、これまでにない多様な視点と方向での学習活動が展開されている。 ●学生の希望が多様化しており、林大内部の教務担当者だけでは指導しきれない面があるとともに、研究・調査時間の確保が大きな課題である。	・林業総合センター、信州大学等外部講師の指導、助言を取り入れる。	A	
		【継】 現場に促した知識の取得、技術力の向上を目標とした実習内容を行なったか。	○関係機関との連携協定・覚書を締結することで最高レベルの技術者や環境・機材を使用しての実習を可能にし、学生の技術力向上に努めた。 ●地元林業士の人数が減少し、今後指導体制が弱体化する可能性がある。	・各業界の第一人者の話を聞く機会を設ける。 ・インターンシップの年間計画を関係者に周知し、協力を仰ぐ。	B	
	既存カリキュラムの充実・見直しを図る。	【新】 平成30年度に向け、現場で使える知識、技術、時代変化に対応し、林大らしさを踏まえたカリキュラムの見直しを図られたか。	○学科目や授業内容の見直しを踏まえ、30年度授業カリキュラムを編成中。	・引き続き、30年度実施に向け、カリキュラム見直しの検討に努める。	B	
教育活動	効率的・計画的な実習等で学習効果を高める。	【拡】 他大学、地域、企業等関係機関と連携し、実習の向上が図られたか。	○信州大学農学部、長野県林業大学校及び岐阜県立森林文化アカデミーの連携・交流に関する覚書を平成29年9月4日に締結し、高度な高性能林業機械操作実習が実現できた。さらに、来年度に向け連携・交流事業の拡充が検討されている。 ○ハスクバーナ・ゼノア㈱との教育協定を平成29年5月25日に締結し、国内最高レベルのチェーンソー技術者から講義を受ける「トップガン研修」が構築された。 ○地域の保育園児等との交流を通じ、演習林での森林教育科目が充実した。	・引き続き年間利用計画の調整を図り、双方が効果的な授業を行えるよう、各教科での活用方法を洗い出す。	A	
		個々の学生に適した進路選択、希望の職種への円滑な就職を推進する。	【継】 1年生は12月末を目途に将来の進路を確定できるように指導できたか。 【継】 2年生は2月末を目途に就職先を決定できるように指導できたか。 【継】 円滑な就職に向け、インターンシップや個人面談を計画的に実施できたか。	○1年生は個人面談や就職ガイダンス、インターンシップ等により希望を把握し、進路の方向付けができた。 ○2年生は計6回の個人面談により就職先を確定し、公務員志望者を除き、進路確定は順調に推移している。 ○3～4回インターンシップを実施することで、就職先とのマッチングを深めることができてきた。 ●公務員志望者の進路確定が遅れるので、そのことへの対応が必要となっている。	・引き続き、こまめな個別指導により早期の進路確定を進める。 ・円滑な就職のためにインターンシップを充実させる。	A
	就職・進学の情報提供	【継】 就職ガイダンスや企業合同説明会、林業財団就職説明会などを通じて、円滑な就職への取り組みができたか。 【継】 会社等とのマッチングの仕組みは検討できたか。	○複数回インターンシップを行うことにより、会社等とのマッチングが図られ有意義な就職に結びついた。 ○企業説明会に参加することにより、幅広い角度から就職について考えることができた。 ○森林組合、素材生産関連会社等に就職する者が13名(65%)で、林業後継者を育成する機関としての役割を果たした。 ●公務員志望者の進路確定が遅れるため対応が必要となっている。	・引き続き、広い視野から就職について考えられるように個別支援する。	B	
		【継】 学内掲示板、個人面談を利用して、的確な求人情報が提供できたか。	○林大への求人情報を随時掲示するとともにホームルーム等で全員に周知した。 ○適宜個別に情報提供した。	・引き続き、タイムリーな質の良い情報提供に努める。	B	

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果(○)と課題(●)	改善策	評価
学校運営	生活指導	社会的規範意識を高め、基本的な生活習慣の育成	【継】 規則正しい生活や地域活動を通じて、社会的ルールを守る意識を高めることができたか。 【新】 教務会議の定例化により教授間の情報共有、対策の検討が図られ適切な指導ができたか。	○寮生活を通じての規則正しい生活態度や地域イベントを手伝う中から社会的なルールを学んだ。 ○月1回以上の教務会議の場で情報共有が図られ、学生生活の課題などへのきめ細やかな対応がなされた。	・教務会議などの場で学生の生活上の課題について、引き続ききめ細やかに対応する。	B
			【継】 寮の自治会活動を通じて、規律ある生活や組織運営など社会人としての意識を高めることができたか。 【継】 学生自治会の情報共有・役割分担の明確化が図られていたか。 【新】 教授間の情報共有と全員で指導する体制ができたか。	○寮祭や伐木選手権など、役割分担による組織的な運営と、共助の精神に基づく連携により、成功させた。 ●上半期には寮の戸締り・門限の遵守など学生指導が緩慢となり、舎監に負荷がかかった。 ○下半期は学校スタッフと自治会役員との連携により、戸締り・門限など改善された。	・学生の自主性を尊重しながら、きめ細やかな対応を行う。	B
		教育設備の充実と適正な管理	【継】 予定された実習等に必要な機械・設備は充分確保されているか。 【新】 関係機関との連携により、高性能林業機械等保有していないが必要な機械の効率的な利用ができたか。  【新】 林業機械・施設・機器の故障・修理情報が職員間で共有されるとともに、使用後の保守点検のルール化や使用簿への記入などにより、適切な管理運営は行われているか。 【新】 使用できない機械の廃棄が行われたか。	○チェーンソーなど不足する機器など今年度予算化が実現して獲得した。 ○労働安全規則改正に伴う防護ズボンなどの対応方針を決定した。 ●刈払機が老朽化し、部品の購入ができなくなっている。  ○機械の補修についてはタイムリーに行い、情報共有もされている。 ○使用後の保守点検は学生により円滑に行われ、新しいチェーンソーの保守点検簿が作成されている。 ○使用できない機械の廃棄は行われた。 ●刈払機が老朽化し部品が製造されていないため修理ができない。	・H30年度予算で要求する。  ・老朽化した刈払機と更新対象のチェーンソーはH30年度購入に向け予算要求する。	A
	学校用地や施設の適切な維持管理	【新】 学生の安全で健全な生活が確保できる施設の維持管理がなされているか。 【新】 寮の運営に際して、舎監・寮母・学生との情報共有が図られているか。 【継】 実習棟・機械庫等は、定期清掃日の設定などにより整理整頓がなされているか。	●学生寮の老朽化が進み、施設の更新が必要となっている。 ○定期的な打合せの場を設けた。 ○学校スタッフと学生により適正に管理された。	・引き続き予算要求を行う	B	
	林大の魅力発信と学生確保の活動	充実した学生募集のPRを実施する。	【継】 学生募集のパンフレット及びポスターを作成・配布し、林業大学校への関心を高めることができたか。  【継】 オープンキャンパスの開催及び高等学校への訪問など積極的なPR活動を実施することができたか。  【継】 平成30年度入学者の定員を確保できたか。	○新たに学生募集に向けた学校案内のパンフレット及び学生募集ポスターを作成し、県内のすべての高等学校、県外の入学実績のある高等学校等に配付した。  ○オープンキャンパスを2回開催し、林大の授業の一部を体験するコーナーを新たに設置するなど内容を工夫して、林大受験を考えている学生や林大に興味のある学生に林大の紹介を行った。(参加者：学生65名を含む総数116名) ○県内のすべての高等学校を訪問し、進路指導担当に対し、志願者確保に向けたPRを行った。 ○国際ウッドフェアの会場において林大ブースを設置し林大のPRを行うとともに、農林系の県立高等学校と林大の学生による意見交換会を行った。 ○業界誌に林大の活動状況の紹介記事を投稿し、林大のPRに務めた。 ○林大の活動内容に関する報道機関の取材に協力した。 ●引き続き、高校生をはじめとする若者が林業へ関心を持ってもらえるような取組を行っていく必要がある。  ○20名の募集定員に対し、推薦入試20名、一般入試14名合計34名(1.7倍)の志願者があり、20名の入学者を確保することができた。	・引き続き、高校生等へ林大をアピールする取り組みを行っていく。	A
		ホームページの充実を図る。	【継】 魅力的なホームページとなっているか。 【継】 学校の概要及び取組が適切にPRされているか。 【継】 必要な情報提供が行われているか。	○見やすいホームページとするため学校情報を4つのメニューに分類して掲載している。  ○学校行事により多くの方が参加していただけるよう、お知らせを随時掲載するとともに、主な行事については実施した内容を掲載している。 ○学生によるフェイスブックを使った情報発信を行っている。  ●魅力ある林大をアピールするためホームページを更に充実させる必要があるが、県のホームページの空間量が制限されている。 ●学生による情報発信コーナーの更新がなされていない。フェイスブックによる情報発信も行っていることから、整理する必要がある。 ●学校行事の情報発信をもっと行う余地がある。	・林大専用サイトの開設が可能か検討する。 ・学生に対し、情報発信の重要性を指導していく。 ・学校行事の発信をもっと積極的にやっていく。	B
その他		【継】 法令を順守しているか。 【継】 予算が適正に執行されているか。	○授業から学校運営に至るまで法令を順守し実施している。  ○限りある予算を執行計画に沿って必要性・緊急性を考慮しながら執行している。 ○予算の執行に当たっては、適正な手続きを経て執行している。	・よりよい林大をめざし、県当局に対し必要な予算要求を行うよう働きかけていく。	A	